

令和元年度東大阪大学柏原高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学園訓の具現化を図り、知力の充実と豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、進学を目指す生徒、就職を希望する生徒等、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。また、卒業生が誇りに思える学校、中学生が多数志望する学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域に親しまれ愛される学校づくりに取り組む。

- ① 伸びしろのある生徒を多数受け入れて学力の向上を図り、進学・就職の実績をアピールできる学校
- ② 自己表現力、コミュニケーション力等の苦手な生徒が、安定した学習環境と充実した教育相談体制の中で生き生きと生活できる学校
- ③ 凡事徹底を推進し、生徒の生活規律を確立させて多様な進路実現を可能とする学校
- ④ スポーツに秀でた生徒を鍛え上げ、全国大会出場等の優れた競技実績を上げる学校
- ⑤ 学校活性化の志を強く持ち、生徒を愛し、生徒と向き合い、家庭とも連携してとことん面倒を見ていく教職員集団が形成されている学校

2 中期的目標

1 学力向上とキャリア教育の深化・充実

- (1) 教科会議の定例化と指導方法の研究推進
- (2) わかる授業を目指した公開授業、さらには授業研究会の確立
- (3) 総合的な探究の時間を活用した「進路研究」でのキャリア教育の推進
- (4) 生徒の学力実態と興味関心を踏まえた多様な進路実現が可能なカリキュラムの研究
- (5) 放課後学習や補習学習等の実践

2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進

- (1) 生徒が集中して学べる学習環境の整備
- (2) 生徒の主体的な活動を育成するための生徒会活動の活性化
- (3) 学級経営を充実させ、学級集団の育成を図る
- (4) 挨拶、身だしなみ、頭髪、時間の厳守等の「凡事徹底」
- (5) 問題事象への迅速な対応と外部機関等との連携の強化
- (6) 生徒の実態のきめ細かな把握と転退学者「0」に
- (7) 相談機能の充実
- (8) 強化部の一層の飛躍と強化部以外の部活動の活性化

3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上

- (1) 課題に応じた校内研修会の充実
- (2) 地域との連携の強化
- (3) 外部人材の活用

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 「あなたは本校の規則を守っていると思いますか」と「服装、頭髪、マナーなどの指導がきちんと行われていると思いますか」、「あなたは、あいさつができていますか」と「あなたは、あいさつができていますか」の3つの質問がすべての学年において肯定率約9割を獲得し、上位を独占したことから、生徒たちの校則やあいさつに対する意識が高いことがよくわかる。いずれの生徒も規範意識が早い段階から形成され、継続した指導が行われている事がわかる。</p> <p>そのほかにも「部活動は活発に行われていると思いますか」の質問に対して、いずれも8割以上が肯定しており、本校の特色のひとつとして『部活動の柏原高校』のイメージが根強く生徒たちの中にある。</p> <p>一方で、授業理解や授業の取り組みに対して、約3割弱の否定的評価がされている。授業や勉強に対して、苦手意識を取り払えるように教員側が創意工夫を凝らしていくことが求められている。</p> <p>また、「図書館は充実していて利用しやすいと思いますか」は約4割の肯定率である。昨年度より肯定率は上昇したが、引き続き対応が必要である。</p> <p>○保護者 「本校では部活動が活発に行われていると思いますか」や「本校では服装・頭髪・マナーなどの生活指導がきちんと行われていると思いますか」は殆どの保護者が肯定しており、保護者の間でも『部活動の柏原高校』のイメージや生活指導の丁寧さが高く評価されている。まさに凡事徹底の目標通りである。</p> <p>しかし、「いじめや差別・偏見をなくすための環境づくり」の項目については一定水準を保ってはいるが、保護者が安心できる環境は整っていると、しっかりと伝えていくと共に、よりよい環境づくりを更に進めていかなければならない。</p> <p>○教員 全体的に肯定率が上昇している。特に「地域に開かれた学校づくり」の肯定率が大きく上昇している。夏休み子ども体験教室等の地域連携により、教員と地域の人々との関係づくりができていくことがわかる。しかし、「生徒の興味・関心に応じた特色ある教育課程の編成」の項目では、2020年教育改革に応じて、本校の特色ある教育課程表の作成が望まれる。</p> <p>【分析】 昨年度に引き続き、あいさつや生活指導、部活動において高い信頼と実績を残すことに成功している。これは本校の強みであり、継続していきたい。</p> <p>しかしながら、今後も学校教育及び学校生活におけるさらなる改善と改良が必要である。</p> <p>ただ、生徒における自己診断において、1回目の調査より2回目の調査の肯定率が全体的に上昇している。本校に長く在籍することによって、本校の環境に適應し、満足しているのではないだろうか。</p>	<p>評価委員： 学識経験者(市内在住) 保護者代表(後援会会長) 元後援会役員代表 同窓会代表</p> <p>○生徒【学習面】 「自分の学力を伸ばす」ことへの積極的な取り組みについて、過去に比べてポイントが高くなっている。(肯定率76%)その面で、「授業が分かり易い」(肯定率69%)「授業に集中している」(肯定率67%)「先生の教材・授業の工夫」(肯定率77%)が生徒なりに自己評価が高い。</p> <p>○生徒【人間関係】 「相談」や「悩み事」についても、平成26年には肯定率が55%から令和元年になると70%に。「先生が自分の良いところを認めてくれている」も肯定率が67%から83%と高まっている。「保健室」は最近、特に利用し易いようだ。(肯定率が58%から77%に)</p> <p>○生徒【学校行事】 5～6年前の生徒には消極的だったが、最近は少しずつ評価(参加意思)が高まっているようだ。(肯定率が56%が69%に)</p> <p>○生徒【その他】 「部活動」は伝統の1つである。入部は7割程度であるが、「活発に行われていると思いますか」の質問には9割が肯定意見と意識が高い。「学校規則や生活規律」の質問には、9割強は自覚があり、本校伝統の1つでもある。肯定率も非常に高い。</p> <p>○保護者【学校生活】 「充実した学校生活になっているか？」は1・2年共に学校を信頼している(肯定率80%)が、「他の学校にない特色？」と聞くと、肯定の回答率は若干低くなる。(肯定率62%)以前は部活が大きな特色と捉えていたのだが、最近はやや変わってきているのだろうか。「進路指導」は肯定率が83%から74%に。進路に関する講演会や現在の終身雇用制度から変わりつつある進路への指導の在り方等については、改めて研究する必要があるのではないだろうか？</p> <p>○教員 特に生活指導に於ける共通認識は、徐々に高まっているが、実際の指導時における意思疎通を図ることが、更に求められる。校内研修体制への強化・充実が望まれる。</p> <p>基礎学力、基本的学習指導体制を必要とする生徒に対しては、教員が学習指導全般において細やかな準備と「きめ細かい指導配慮」に、並々ならない努力をしている様子が数字に表れているように思われる。今後も今以上に「授業研究」に励み、体制を後退させないように努力されたい。</p> <p>【総括】 新しく校舎が建ち、校庭が整備されて、ハード面で抜群の教育環境が整った。生徒も若い先生方も以前の「手作り」のような教育環境は知らない。むしろ知らないから、自然的な深い発想と「当たり前」の教育環境を頭に描きながら、生徒の実態を見据えて日々職務に専念出来る。従って今回の調査は、生徒・教師共に過去に行った自己診断と比較しても、比較的前向き(高い肯定率)な調査回答が見受けられたのが特色の1つでもある。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とキャリア教育の深化・充実	(1) 授業の質的向上			
	ア) 授業の質的向上のための研究推進体制の確立	ア) 教科会議を定例化し、指導方法や指導内容の交流や情報交換等を行い授業の質を高めるよう実践する。	ア) 自己診断における教科指導や授業に係る項目	ア) 教科会議の定例化で、教科内での打合せがしやすくなり効果を上げている。進度の調整だけでなく、指導方法や内容等の研修をしている。
	イ) 教員間で研鑽し合う体制づくり	イ) 改革推進部が中心になり、授業公開期間の設定を行い、授業を通じた教員間の交流を進める。また、授業の質を高める体制づくりを整えた。	イ) 授業公開の参加者数及び研究授業に関する項目	イ) 引き続き授業公開を全教科取り組んだ。授業者及び参観者双方にとって力量の向上につながっている。また、保護者の授業参観を5月に実施した。1年生の保護者からは、入学後の様子を見学でき高評価であった。
	ウ) 学び直しの時間充実	ウ) 放課後学習の場(真-Navi Room)や考査前勉強会の設定を行う。	ウ) 自己診断における放課後学習の場の活用項目	ウ) 全学年通じて、「真-Navi Room」が利用されていた。特に考査前勉強会において、利用が増加していた。
	(2) 多様な進路選択への対応			
	ア) 進路未定者「0」を目指す	ア) 進路指導部と学年との十分な連携・情報交換を強化する中で、一人一人の生徒の状況を把握し、共通理解を図り、計画的系統的な進路指導を行う。	ア) 令和元年度進路状況の実績	ア) 大学(短大含む)進学 122名 専門学校進学 45名 就職(縁故・自営含む) 44名 公務員(自衛官) 2名 (令和2年4月末日現在)
イ) 就職内定率100%の継続を目指す。	イ) 企業や事業所とのつながりを維持しつつ、生徒の興味関心も把握し、コディネーターを活用し、内定に至るまで指導を徹底する。	イ) 令和元年度就職内定状況実績	イ) 学校紹介の就職希望者は33名(31企業) 内定率100.0% (令和2年4月末日現在)	
ウ) 進路を見据えた選択科目の充実と研究	ウ) 選択科目開設6年目。専門的に学ぶ系列化に取り組み、一部の選択系列のコース化を行い、進路に向けた選択科目についての研究を継続する。	ウ) 自己診断の評価結果	ウ) 人気のある調理・美術系列のコース化を行い、より発展した授業の充実を図った。また、生徒のニーズに合わせた選択科目の取捨選択を行った。	
2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進	(1) 自己肯定感の育成			
	ア) 生徒が活躍できる場の提供	ア) 生徒会活動の活性化 生徒会が主体になった柏高祭(文化祭)の開催。学校説明会・夏休み体験教室・村上学園フェスタでの生徒会はじめ有志の生徒の協力。	ア) 自己診断の評価結果	ア) 柏高祭(文化祭)・夏休み体験教室・村上学園フェスタ等生徒会役員を含む生徒たちによって、協力及び発表を行った。年々改善を行いより良い発表の場となっている。
	イ) キャリアアシストコースの充実	イ) 生徒サポート部の充実を図り、支援を必要とする生徒の状況把握と共通理解に努める。カウンセラー等、教育相談室との連携強化を図る。	イ) アシストコースの自己診断項目の評価結果	イ) 自己診断から、約7割の生徒が学校に来るのが楽しいと回答している。中学校時に不登校であった生徒も在籍しているが、クラスの様子や自己診断から学校での生き生きとした姿が見えてくる。進路を考えて生活している生徒も7割を超える状況である。
	ウ) 退学者の「減少」	ウ) 生徒に対するきめ細やかな状況把握と家庭との連携強化を図り、転退学者を減少させる。	ウ) 退学者数の推移	ウ) 昨年度と比べて減少した。様々な理由で転退学生が出ているが、引き続き退学者の減少をめざす。
	(2) 凡事徹底の推進と学習環境の整備			
	ア) 挨拶、時間の厳守等の凡事徹底	ア) 登校時の立哨指導及び通学路指導の徹底 生徒への声かけ	ア) 外来者の評価・自己診断の該当項目評価結果	ア) 自己診断の当該項目では8割~9割の生徒が肯定的に評価している。来校者からは、「よく挨拶をしますね」と褒めていただくこともしばしば。スポーツコース生が中心であるが、他の生徒にも定着しつつある。
イ) 問題行動への迅速な対応と時代に即した生活指導	イ) 生徒への対応では、受容と傾聴という姿勢を心掛ける。また、学年会議や補導会議で家庭環境も含めた生徒の状況把握をし、生徒理解に努める。	イ) 自己診断の評価結果	イ) 生徒指導室、相談室等を利用して、生徒への指導の徹底を行った。様々な家庭環境の生徒が在籍しているため、引き続き生徒に寄り添った指導を心掛けたい。	
3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上	(1) 校内研修の充実			
	ア) 学校の課題に則した校内研修の実施	ア) 校内研修において、学校の課題に則した内容の研修を計画的に実施	ア) 実施回数、研修内容	ア) 学校の課題(SNS問題、ICT推進、大学入試改革、異文化理解、いじめなど)をテーマに実施し、教員の資質の向上及び学校の課題克服につながっている。
	イ) 授業を中心とした研修会の実施	イ) 各教科による公開授業研究会の実施	イ) 実施回数、研修内容	イ) 全教科で公開授業が実施され、指導法や生徒の様子等、参観カードや教科会議等で研究・交流することができた。また、授業公開期間を設定することにより、幅広く授業参観ができ、教員間の交流が深まり、成果があった。
	(2) 外部人材の活用と地域連携			
	ア) 専門学校や大学、企業等との連携と活用	ア) 進学ガイダンスや大学・専門学校・企業見学会等の実施	ア) キャリア教育にかかる自己診断結果と実施内容	ア) キャリア教育の一環として実施。多数来校。当該項目では、8割の生徒が役立っていると評価している。
	イ) 教育活動への外部の人材活用	イ) 部活動以外の教育活動への人材活用や選択科目の授業等への専門家の配置	イ) 人材活用状況	イ) 選択科目の授業において、今年度は7系列が専門の講師を招き、授業を展開した。
ウ) 柏原市・八尾市、自治会との連携	ウ) 地域連携の分掌を設け、市や商工会、自治会との積極的な連携を図る	ウ) 市や商工会等実行委員会主催行事参加状況	ウ) 市民総合フェスティバルへの部員の参加、地元中学生を文化祭へ招待する等、柏原市との連携を推進している。	
エ) 夏休み体験教室の実施	エ) 地元小中学生の体験教室を行い、地域への貢献や地域との連携を図る	エ) 参加状況	エ) 今年度は157名が参加し、アンケートにおいても高評価をいただいた。今後も継続して実施していく。	